

松本藩主の家紋

日本の家紋は歴史的に見ると、「家紋」と呼ばれる紋章で家族のつながりを示してきた。家紋は、着物、軍配、家財道具、家屋など、あらゆるものに描かれている。家紋には、皇室の「菊」のように自然界にあるものをモチーフにしたものや、三菱の「スリーダイヤ」のように幾何学的な図形を組み合わせたものがよく使われる。

以下は、松本城を統治した各武家の家紋である。黒門一の門の枡形側の軒先の丸瓦の端に、それぞれの家の紋章がいくつか見える。

家紋	Family Name	家紋の名前	説明
	Ishikawa Family (1590–1613)	<i>sasa rindō</i>	竹に似た五枚の葉を持つリンドウの花
	Ogasawara Family (1613–1617)	<i>sangai bishi</i>	重なり合う 3 つのダイヤモンド
	Toda Family (1617–1633)	<i>hanare muttsu boshi</i>	6 つの星が塗りつぶされた円となって配置されている
	Matsudaira Family (1633–1638)	<i>maru ni mitsuba aoi</i>	丸に囲まれたフタバアオイの葉 3 枚
	Hotta Family (1638–1642)	<i>kuromochi ni tate mukkō</i>	黒い満月に縦長の花梨の花
	Mizuno Family (1642–1725)	<i>maru ni tachi omodaka</i>	丸に囲まれた縦長の三つ葉の沢潟。
	Toda Family (1726–1869)	<i>hanare muttsu boshi</i>	6 つの星が塗りつぶされた円となって配置されている